

本分科会は、金星探査ミッションを有意義なものにし、また金星に関わる広範囲な科学を推進するために必要な、情報交換及び戦略策定の場を提供することを目指している。その目的のために、日本惑星科学会、日本天文学会、日本気象学会で活躍する研究者と連携を計り、分科会連絡組織「金星研究サークル」を設置し共同運営している。学会横断型という性質上、メンバーが集まって会合を持つことが困難なため、他分野・機関の最新の研究情報に触れ、議論の一助とするためホームページの充実を進めており、また合同大会のチャンスを利用して密度の高いミーティングと懇親会を持つことにしている。2004年度も以下のように会合と懇親会を開くことができ、大変盛況なうちに活発な情報交換が行われ、親睦が深められた。特に今回は進行中或いは近く実現する観測計画が数多く報告され、発足から3年間という時の流れを感じさせるものとなった。このミーティングでは、各機関の観測者がお互いに刺激を受けただけでなく、理論系の研究者に一層の団結を促し意欲をかき立てた点で、大きな効果があった。

第3回会合

日時：2004年5月10日（月）

8:45-20:00 @幕張メッセ国際会議場 101B 室（ミーティング）

20:20 - 22:00 @イタリアンレストラン・トニーローマ（懇親会）

ミーティング概要：1時間あまりの短時間に、観測を中心に、以下の13件もの活動および計画についての報告（順不同）が行われた。参加者は学生と職持ちがほぼ半々で、合わせて50名ほどであった。

1. 金星探査計画の現状と課題（中村正人）
2. 金星探査計画のサイエンスとヨーロッパの探査計画の状況（今村剛）
3. 群馬天文台での金星観測（大月祥子）
4. 金星の電波観測の現状（佐川英夫）
5. 国立天文台・岡山での新システムによる金星観測計画（佐藤靖彦）
6. 東北大学・飯館観測所での惑星光学観測の現状と計画（坂野井健）
7. 北海道・名寄における金星紫外観測（杉山耕一郎）
8. 新惑星観測望遠鏡の計画（渡部潤一・代読：坂野井健）
9. 北海道大学での電波観測準備状況（杉山耕一郎）
10. 東北大学での木星シンクロトロン電波観測（土屋史紀）
11. 名古屋大学およびALMAを用いた惑星観測の展望（長浜智夫）
12. 木星エントリープローブでの観測（竹内覚）
13. 惑星宇宙望遠鏡計画の現状（高橋幸弘）

興味を持たれたかたは、下記の「金星研究サークル」のHPをご覧ください。

<http://pat.geophys.tohoku.ac.jp/~planet/venus/circle/index.htm>